

# 第1回鳥インフルエンザワクチン技術検討会 議事概要

## 1. 開催日時及び場所

日時：令和7年8月19日（火）14：00 ～ 16：00

場所：農林水産省統計部第3・4会議室（対面・WEB会議形式による併催）

## 2. 出席委員（50音順、敬称略）

池田一樹、岩科友希、内田裕子、大谷芳子、迫田義博、白田一敏、砂川富正、高松信吾、増子貴士、森口紗千子、森泰三、山口剛士、山本健久

## 3. 会議の概要

### （1）鳥インフルエンザワクチン技術検討会の目的と進め方について

本検討会の委員長選出後、事務局より、「鳥インフルエンザワクチン技術検討会の目的と進め方について」（資料1）に基づき説明し、事務局案が了承された。

### （2）ワクチンの予防的接種を検討する上での基本的な考え方及びHPAIワクチン接種の想定される主な論点について

「ワクチンの予防的接種を検討する上での基本的な考え方について」（資料2）、「HPAIワクチン接種の想定される主な論点について」（資料3）に基づき事務局より説明。主な意見は以下のとおり。

- 野鳥を介して毎年発生リスクがある中、一度接種を始めれば、簡単にやめることはできない。
- どういう状況になったら接種を開始して、どういう状況になったら接種をやめるのか議論すべき。
- 資料中、国内の承認ワクチンよりも海外のワクチンの有効性が高いとしているが、根拠が不十分。現存するワクチンの有効性等に関するデータを収集し、データに基づいて科学的に検討すべき。
- 持続可能な防疫対応に向けたワクチンの戦略的使用について、リスクアナリシスの考え方に基づいて検討を進めることが大事。
- ワクチンが有効であり、効果が持続するのであれば、期待が持てると思う。

- 接種対象をどうするか議論が必要。議論の最初から採卵鶏に限定する必要はない。
- 展示動物については議論の対象外とし、議論の対象は家きんとすべき。
- サーベイランスをどれだけ実施しても100%摘発するのは困難。ワクチン接種により、本来感染時に症状が見えやすい鶏でも不顕性感染が生じることに留意すべき。
- サーベイランスやワクチン接種状況の把握などにより生じる労力・負担は非常に大きく、都道府県が実施するのは実務的に困難ではないか。
- サーベイランスやワクチンの管理など、ワクチン接種に伴い必要となる取組については、生産者としても責任をもって関与する必要がある。
- 生産者にワクチン接種を実施したいかアンケートした結果、ワクチンを導入すべきとの回答が多かった。一方で、一定程度判断できないとの回答があり、その理由として、効果についてよく分からない、輸出への影響やサーベイランスの実効性に不安があるから判断できないとのことであった。農林水産省が必要な情報を提示して、生産者の合意を得る必要。
- ワクチン接種体制の構築には難しい課題が多く、議論を重ねることが重要である。その結果、現行の「原則としてワクチンは使用しない」という体制を維持することになっても、議論は無駄にならない。
- ワクチンの購入やサーベイランスに要する経費のほか、これまでの発生で要した手当金交付額なども踏まえ、ワクチン接種を開始した際の費用について分析すべき。
- ワクチンの価格がどの程度なのか関心がある。
- 生産者が希望を感じられるような研究・施策が必要ではないか。
- ワクチン株の選定や終了を判断するための野外株のサーベイランスにはどこまで取り組むのか。

#### 4. 今後の予定

次回以降は、委員からの意見を踏まえ再度論点を整理した上で、十分に収集されたデータに基づき、個別具体の論点・課題に対する対応案について議論を行う。